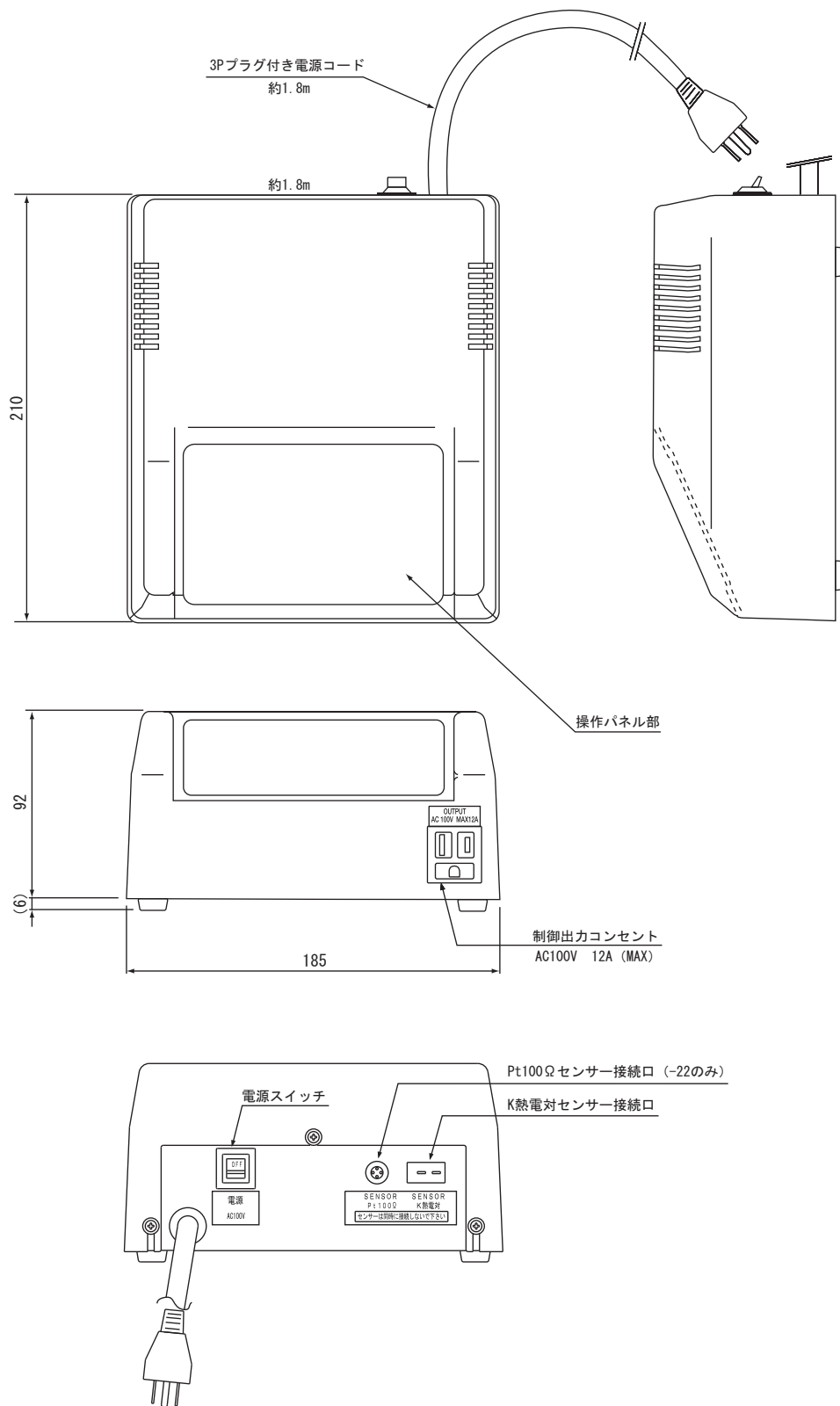


■ デジタルマルチ温調器

1-5481-21, 22

■ 外形寸法図

(単位 : mm)



■オートチューニング方法

<1-5481-21>

例) 150°C設定でオートチューニングを行う場合

1. 電源ON
電源を投入すると待機モードを表示します。

MEAS.(測定温度)	25	現在温度
SET.(設定温度)	0	設定温度



↓    同時に長押し(約5秒)

2. 共通パラメータ設定画面

MEAS.(測定温度)	-PUS
SET.(設定温度)	0

↓  26回押す

3. No1オートチューニング起動画面(150°CがPID範囲の「低温域」に設定されている場合に限る。)
UP/DOWNキーでオートチューニングを起動する温度を入力してください。

MEAS.(測定温度)	AL-1	→	MEAS.(測定温度)	AL-1
SET.(設定温度)	0		SET.(設定温度)	150
				

※設定温度が「中温域」の場合はNo2、「高温域」の場合はNo3の画面で同様に操作します。

↓  押す


4. オートチューニング開始
オートチューニング中は下図の画面が交互に切り替わります。

MEAS.(測定温度)	AL-1	↔	MEAS.(測定温度)	25
SET.(設定温度)	0	交互に表示	SET.(設定温度)	150

↓

5. オートチューニング終了
No1オートチューニング起動画面に戻ります。

MEAS.(測定温度)	AL-1
SET.(設定温度)	150

↓  長押し(約5秒)

6. 待機モードに戻ります。

MEAS.(測定温度)	25
SET.(設定温度)	0

<1-5481-22>

例) 50°C設定でオートチューニングを行う場合

1. 設定温度の入力

▼ ▲ キーを押してSET
画面を50にしてください。

MEAS.
20 現在温度
SET
50 設定温度

↓ MODE 2回押す

2. チューニング種類画面

▼ ▲ キーを押してSET
画面を1にしてください。

MEAS.
tUn 運転選択画面
SET
1 初期設定は「1」

↓ FUNC 押す

3. オートチューニング

OUTランプが点灯(消灯)し、SET画面に設定温度とALが交互に切り替わります。

MEAS. 20 MEAS. 20
SET 50 SET AL
交互に表示

※この状態で再度 FUNC を押すとオートチューニングが中断されます。

↓

4. オートチューニング終了

2の画面に戻り、そのまま温度調節を
行います。




MEAS.
tUn 運転選択画面
SET
1 初期設定は「1」

↓ MODE 数回押す(回数はタイマー設定により異なります)

5. 運転画面に戻ります。

MEAS.
50 現在温度
SET
50 設定温度

■エラー表示一覧

エラー表示	安全装置・症状	対策・処理方法
	メモリーエラー	<ul style="list-style-type: none"> ●電源を一度切り、再投入する。
	A/D変換エラー	<ul style="list-style-type: none"> ●カタログ記載の「専用センサー」等適切なセンサーを使用する。 ●電源を1度切り、再投入する。
	K熱電対/Pt100Ωセンサー選択エラー(-22のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ●K熱電対またはPt100Ωの内、接続・使用するセンサーを正しく設定する。
	オートチューニングエラー (オートチューニング開始後2~3時間経過しても終了しない)	<ul style="list-style-type: none"> ●負荷側のヒーター容量を小さくする。 ●測定物の断熱処理を抑える (オーバーシュート後の自然冷却が速やかに行われるようにする)。 ●オートチューニングではなくマニュアルで設定する。